

科目名	スポーツ医学			担当者			
英文名	Sports Medicine						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		専門基礎・選択				
授業形態	講義	科目ナンバー	SBE204		卒業認定方針との関連	⑧	
【到達目標】							
本講義は臨床スポーツ医学の内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに関する内容を取り扱う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ医学各論		内科的応急処置を説明できる		内科的応急処置が理解できている		内科的応急処置が理解できていない	
海外遠征		海外遠征中の諸問題を説明できる		海外遠征中の諸問題が理解できている		海外遠征中の諸問題が理解できていない	
アンチ・ドーピング		アンチ・ドーピング活動を説明できる		アンチ・ドーピング活動が理解できている		アンチ・ドーピング活動が理解できていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 健康の概念と医事法規 【到達目標】 健康の概念と医事法規について理解する。 健康の概念と医事法規 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキスト 上 p 3 - 11 を読む。(4.0hr)				第9回 環境とスポーツⅡ（低温・低圧・高圧環境） 【到達目標】 凍傷と低体温症、急性高山病、潜水事故について理解する。 偶発的低体温症、凍傷、急性高山病、潜水事故 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 171 - 174、221 を読む。(4.0hr)			
第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 女性とは何か（5つの段階の性別）、女性の身体的特徴、女性の性周期 月経期間中のスポーツ活動、運動選手の月経異常、月経周期とコンディション 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。(4.0hr)				第10回 メディカルチェックとコンディショニング 【到達目標】 メディカルチェックの重要性とコンディショニング、運動中止の判定について理解する。 健康管理体制、メディカルチェック、体調面のコンディションのチェック 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 17 - 27 を読む。(4.0hr)			
第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【到達目標】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 受精・着床・妊娠・分娩、妊婦スポーツ、更年期障害とスポーツ 骨粗鬆症と変形性関節症 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。(4.0hr)				第11回 皮膚・眼疾患とスポーツ 【到達目標】 主な皮膚疾患及び眼疾患について理解する。 皮膚、皮膚附属器の構造、皮膚の機能、日焼け、まめ、くつずれ、たこ、うおのめ ブラック・ヒール、爪の血豆、雪目、餃子耳 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 223 - 235 を読む。(4.0hr)			
第4回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器の急性疾患） 【到達目標】 運動中の突然死とその対策について理解する。 運動中の突然死、意識障害 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153、187 - 198 を読む。(4.0hr)				第12回 精神とスポーツ 【到達目標】 スポーツに関連する精神疾患について理解する。 オーバートレーニング症候群、統合失調症（精神分裂病）、気分障害（鬱病）、 摂食障害、神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、心身症、睡眠障害 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 182 - 184 を読む。(4.0hr)			
第5回 内科的疾患とスポーツⅡ（呼吸器・その他の急性疾患） 【到達目標】 運動における呼吸器系・消化器系疾患について理解する。 過換気症候群、運動誘発性喘息、気道過敏性慢性炎症、自然気胸 運動誘発性アナフィラキシー、Side Stitch 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 163 - 171 を読む。(4.0hr)				第13回 海外遠征のスポーツ医学 【到達目標】 海外遠征の特殊性について理解する。 海外遠征の特殊性、予防接種、歯科治療、航空機内での過ごし方、時差ぼけ対策 海外滞在の注意点 【授業時間外学習】 スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅳ p 18 - 22、アスレティック トレーナー専門科目テキスト 4 p 100 - 104 を読む。(4.0hr)			
第6回 内科的疾患とスポーツⅢ（慢性疾患） 【到達目標】 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかんについて理解する。 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかん 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182、201 - 202 を読む。(4.0hr)				第14回 ドーピング・コントロールⅠ（総論） 【到達目標】 ドーピングについて、なぜいけないのか、歴史、現状を理解する。 ドーピングの歴史、ドーピングが禁止される理由、ドーピングの定義、禁止物質の指定要件 ドーピング検査の実際、選手側の権利と義務、ドーピング検査後の流れ、指導者の役割 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。(4.0hr)			
第7回 感染症とスポーツ 【到達目標】 主な感染症とスポーツとの関わり、対策について理解する。 感染症の一般的な症状、発熱時のスポーツ活動、破傷風 風邪症候群（普通感冒、インフルエンザ）、AIDS 【授業時間外学習】 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 38 - 59 を読む。(4.0hr)				第15回 ドーピング・コントロールⅡ（各論） 【到達目標】 禁止物質、検査の実際について理解する。 ドーピング禁止リスト、治療目的使用に係る除外措置、日常生活で気を付けること 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。(4.0hr)			
第8回 環境とスポーツⅠ（高温環境） 【到達目標】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 熱中症 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
本科目は健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。3年次前期開講の「救急処置法」を履修することが望ましい。パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を生かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、内科系の内容について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」小出清一他編 南江堂、「健康運動指導士養成講習会テキスト上」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団、「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」公益財団法人 日本スポーツ協会、「アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4」、公益財団法人 日本スポーツ協会							
【成績評価方法】							
期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	スポーツ医学			担当者			
英文名	Sports Medicine						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	HBR201		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
本講義は臨床スポーツ医学の内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳに関する内容を取り扱う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ医学各論		内科的応急処置を説明できる		内科的応急処置が理解できている		内科的応急処置が理解できていない	
海外遠征		海外遠征中の諸問題を説明できる		海外遠征中の諸問題が理解できている		海外遠征中の諸問題が理解できていない	
アンチ・ドーピング		アンチ・ドーピング活動を説明できる		アンチ・ドーピング活動が理解できている		アンチ・ドーピング活動が理解できていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 健康の概念と医事法規 【 到達目標 】 健康の概念と医事法規について理解する。 健康の概念と医事法規 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキスト 上 p 3 - 11 を読む。(4.0hr)				第9回 環境とスポーツⅡ（低温・低圧・高圧環境） 【 到達目標 】 凍傷と低体温症、急性高山病、潜水事故について理解する。 偶発的低体温症、凍傷、急性高山病、潜水事故 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 171 - 174、221 を読む。(4.0hr)			
第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 女性とは何か（5つの段階の性別）、女性の身体的特徴、女性の性周期 月経期間中のスポーツ活動、運動選手の月経異常、月経周期とコンディショニング 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。(4.0hr)				第10回 メディカルチェックとコンディショニング 【 到達目標 】 メディカルチェックの重要性和コンディショニング、運動中止の判定について理解する。 健康管理体制、メディカルチェック、体調面のコンディショニングのチェック 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 17 - 27 を読む。(4.0hr)			
第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで） 【 到達目標 】 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 受精・着床・妊娠・分娩、妊婦スポーツ、更年期障害とスポーツ 骨粗鬆症と変形性関節症 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。(4.0hr)				第11回 皮膚・眼疾患とスポーツ 【 到達目標 】 主な皮膚疾患及び眼疾患について理解する。 皮膚、皮膚付属器の構造、皮膚の機能、日焼け、まめ、くずずれ、たこ、うおのめ ブラック・ヒール、爪の血豆、雪目、餃子耳 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 223 - 235 を読む。(4.0hr)			
第4回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器の急性疾患） 【 到達目標 】 運動中の突然死とその対策について理解する。 運動中の突然死、意識障害 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153、187 - 198 を読む。(4.0hr)				第12回 精神とスポーツ 【 到達目標 】 スポーツに関連する精神疾患について理解する。 オーバートレーニング症候群、統合失調症（精神分裂病）、気分障害（鬱病）、 摂食障害、神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、心身症、睡眠障害 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 182 - 184 を読む。(4.0hr)			
第5回 内科的疾患とスポーツⅡ（呼吸器・その他の急性疾患） 【 到達目標 】 運動における呼吸器系・消化器系疾患について理解する。 過換気症候群、運動誘発性喘息、気道過敏性慢性炎症、自然気胸 運動誘発性アナフィラキシー、Side Stitch 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 163 - 171 を読む。(4.0hr)				第13回 海外遠征のスポーツ医学 【 到達目標 】 海外遠征の特殊性について理解する。 海外遠征の特殊性、予防接種、歯科治療、航空機内での過ごし方、時差ぼけ対策 海外滞在中の注意点 【授業時間外学習】 スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅳ p 18 - 22、アスレティック トレーナー専門科目テキスト 4 p 100 - 104 を読む。(4.0hr)			
第6回 内科的疾患とスポーツⅢ（慢性疾患） 【 到達目標 】 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかんについて理解する。 貧血、蛋白尿・血尿、糖尿病、てんかん 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182、201 - 202 を読む。(4.0hr)				第14回 ドーピング・コントロールⅠ（総論） 【 到達目標 】 ドーピングについて、なぜいけないのか、歴史、現状を理解する。 ドーピングの歴史、ドーピングが禁止される理由、ドーピングの定義、禁止物質の指定要件 ドーピング検査の実際、選手側の権利と義務、ドーピング検査後の流れ、指導者の役割 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。(4.0hr)			
第7回 感染症とスポーツ 【 到達目標 】 主な感染症とスポーツとの関わり、対策について理解する。 感染症の一般的な症状、発熱時のスポーツ活動、破傷風 風邪症候群（普通感冒、インフルエンザ）、AIDS 【授業時間外学習】 アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 p 38 - 59 を読む。(4.0hr)				第15回 ドーピング・コントロールⅡ（各論） 【 到達目標 】 禁止物質、検査の実際について理解する。 ドーピング禁止リスト、治療目的使用に係る除外措置、日常生活で気を付けること 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 13 - 17 を読む。(4.0hr)			
第8回 環境とスポーツⅠ（高温環境） 【 到達目標 】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 熱中症 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
本科目は健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次前期開講の「救急処置法」を履修していることが望ましい。 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を生かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、内科系の内容について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」小出清一他編 南江堂、「健康運動指導士養成講習会テキスト上」公益財団法人 健康・体力づくり事業財団、「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」公益財団法人 日本スポーツ協会、「アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4」公益財団法人 日本スポーツ協会							
【成績評価方法】							
期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	救急処置法			担当者			
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	康スポーツ学科		子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択				
授業形態	講義	科目ナンバー	SBE301		認定方針との関連	⑤⑧⑨	
【到達目標】 本講義は臨床スポーツ医学の後編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
外傷総論		外傷の応急処置を説明できる		外傷の応急処置が理解できている		外傷の応急処置が理解できていない	
外傷各論		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない	
心肺蘇生法		心肺蘇生法を実践できる		心肺蘇生法を説明できる		心肺蘇生法が理解できている	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。				第9回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部） 【到達目標】 頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 頸椎捻挫、頸椎・頸髄損傷、頸椎椎間板ヘルニア、Burner症候群、肩こり、肋骨骨折			
【授業時間外学習】 シラバスを参考にし、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61、90 を読む。(4.0hr)			
第2回 外傷総論 【到達目標】 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治癒過程について理解する。 外傷とは何か、皮膚の構造、創と傷、創傷の治癒過程、骨折の定義、骨折の分類、骨折の修復過程とその異常、骨折の症状、捻挫・脱臼・靭帯損傷の定義と分類				第10回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤） 【到達目標】 腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 腰部椎間板ヘルニア、腰椎分離・分離不全、腰痛症、鼠径部痛症候群、恥骨下枝疲労骨折			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。(4.0hr)			
第3回 応急処置総論 【到達目標】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 RICE処置、外傷の応急処置、皮膚損傷の治療				第11回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷） 【到達目標】 膝のスポーツ外傷について理解する。 膝の局所解剖、前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、外側側副靭帯損傷、半月損傷			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。(4.0hr)			
第4回 頭部のスポーツ外傷 【到達目標】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 意識障害の診かた、脳振盪、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳内血腫				第12回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部） 【到達目標】 膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 膝の局所解剖、膝蓋大腿関節障害、反復性膝蓋骨脱臼、膝蓋軟骨軟化症、膝蓋腱炎、Osgood-Schlatter病、有痛性分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鷲足炎、棚障害、骨化筋炎			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39、55 - 58、157 - 160 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。(4.0hr)			
第5回 顔面のスポーツ外傷 【到達目標】 顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 顔面骨の構成、鼻骨骨折、頬骨骨折、下顎骨骨折、眼窩底吹き抜け骨折、鼻出血、歯牙損傷				第13回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部） 【到達目標】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 肉ばなれ、脛骨・腓骨疲労骨折、シンスプリント、アキレス腱断裂、足関節捻挫、有痛性外脛骨、足底腱膜炎			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105、123 - 139 を読む。(4.0hr)			
第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【到達目標】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼、動揺肩・不安定肩、インピンジメント症候群（上腕二頭筋長頭腱炎）、肩関節周囲炎				第14回 心肺蘇生法の理論 【到達目標】 心肺蘇生法の理論について理解する。 心肺蘇生法の手順（安全確認、意識の確認、呼吸の確認、胸骨圧迫、気道確保、回復体位）AEDの使用法、小児・乳児の心肺蘇生法、気道異物除去			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)			
第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕） 【到達目標】 上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 上腕骨近位骨端線離開、上腕骨顆部骨折、Volkman拘縮、肘関節脱臼、小児肘内障、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、上腕骨小頭離断性骨軟骨炎、投球回数を目安				第15回 心肺蘇生法実習 【到達目標】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS (Basic Life Support) ができるようになる。 心肺蘇生法デモンストレーション、心肺蘇生法実習、心肺蘇生法検定、気道異物除去実習			
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)			
第8回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指） 【到達目標】 手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 機軸遠位端骨折、舟状骨骨折、有鉤骨鉤部骨折、三角繊維軟骨複合体損傷、突き指							
【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、教員免許、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科目資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学」も併せて履修していることが望ましい。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】 医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義と実習を行う。							
【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会							
【成績評価方法】 期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	救急処置法			担当者		
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2				専門・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	HME202		卒業認定方針との関連	⑤⑦⑨
【到達目標】						
本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
外傷総論		外傷の応急処置を説明できる		外傷の応急処置が理解できている		外傷の応急処置が理解できていない
外傷各論		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている		頭部・顔面・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない
心肺蘇生法		心肺蘇生法を実践できる		心肺蘇生法を説明できる		心肺蘇生法が理解できている
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考に、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				第9回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ（頸部から胸部） 【到達目標】 頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61、90 を読む。(4.0hr)		
第2回 外傷総論 【到達目標】 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。(4.0hr)				第10回 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ（腰部から骨盤） 【到達目標】 腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。(4.0hr)		
第3回 応急処置総論 【到達目標】 RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)				第11回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝の外傷） 【到達目標】 膝のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。(4.0hr)		
第4回 頭部のスポーツ外傷 【到達目標】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39、55 - 58、157 - 160 を読む。(4.0hr)				第12回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（膝の障害、大腿部） 【到達目標】 膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。(4.0hr)		
第5回 顔面のスポーツ外傷 【到達目標】 顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。(4.0hr)				第13回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（大腿・下腿・足部） 【到達目標】 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105、123 - 139 を読む。(4.0hr)		
第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節） 【到達目標】 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)				第14回 心肺蘇生法の理論 【到達目標】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)		
第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から前腕） 【到達目標】 上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。(4.0hr)				第15回 心肺蘇生法実習 【到達目標】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS (Basic Life Support) ができるようになる。 【授業時間外学習】 BLSヘルスクエアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)		
第8回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ（手関節から指） 【到達目標】 手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
本科目は選択科目ではあるが、教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科、GFI（グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター）資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学」も併せて履修することが望ましい。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で行う。 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】						
医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。						
【教科書・参考書など】						
参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会						
【成績評価方法】						
期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	運動プログラム管理演習			担当者		
英文名	Seminar in Medical Management for Exercise Program					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4				専門・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	HME403		卒業認定方針との関連	⑦
【到達目標】						
<p>メディカルチェックをはじめ、運動プログラム作成と管理に関わる医学的基礎知識を学び、種々の疾病予防のための運動プログラムの作成理論とプログラム実施時の留意点などについて演習および実習を行う。</p>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
運動プログラムの作成総論		運動プログラム作成の理論を説明できる		運動プログラム作成の理論が理解できている		運動プログラム作成の理論が理解できていない
運動プログラムの作成各論		生活習慣病に対する運動プログラム作成を説明できる		生活習慣病に対する運動プログラム作成が理解できている		生活習慣病に対する運動プログラム作成が理解できていない
服薬者の運動プログラム作成		服薬者の運動プログラム作成を説明できる		服薬者の運動プログラム作成が理解できている		服薬者の運動プログラム作成が理解できていない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進め方、講義内容に関わる背景を理解する。 健康運動指導士の資格および認定条件について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストを購入し、内容を把握しておく。(4.0hr)				第9回 服薬者の運動プログラム作成上の注意 【 到達目標 】 生活習慣病患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、内容を調整できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.593-601を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第2回 運動プログラム作成の基本 (1) 【 到達目標 】 運動プログラム作成の基本原則を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.559-570を事前に読んでくる。(4.0hr)				第10回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (1) 【 到達目標 】 包括的運動プログラムの基本例が作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.603-607を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第3回 運動プログラム作成の基本 (2) 【 到達目標 】 対象者に合わせた包括的運動プログラム作成の基本を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.559-570を事前に読んでくる。(4.0hr)				第11回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (1) 【 到達目標 】 包括的運動プログラムの基本例が作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.603-607を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第4回 健診結果・安静時心電図の読み方 (1) 【 到達目標 】 健診項目、基準値を理解し、指導判定値を説明できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.571-583を事前に読んでくる。(4.0hr)				第12回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (2) 【 到達目標 】 過体重、肥満症を併発した患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.609-616を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第5回 血圧検査・眼底検査・肺機能検査・心電図検査実習 【 到達目標 】 各自が検者・被検者となって生理機能検査を行い、その測定原理を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.571-583を事前に読んでくる。(4.0hr)				第13回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (2) 【 到達目標 】 高血糖、糖尿病を併発した患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.609-616を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第6回 健診結果・安静時心電図の読み方 (2) 【 到達目標 】 血圧検査・肺機能検査・心電図検査の結果を判定する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.571-583を事前に読んでくる。(4.0hr)				第14回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (3) 【 到達目標 】 高血圧及び脂質異常症患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.617-620を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第7回 メディカルチェックの重要性 【 到達目標 】 内科的メディカルチェックの重要性を理解し、リスクの層別化が行える。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.585-591を事前に読んでくる。(4.0hr)				第16回 生活習慣病に対する運動療法 プログラム作成実習 (4) 【 到達目標 】 変形性膝関節症・腰痛を抱える患者に対する運動プログラムが作成できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.621-626を事前に読んでくる。(4.0hr)		
第8回 服薬者の運動プログラム作成上の注意 【 到達目標 】 生活習慣病患者が服用する薬が運動プログラム作成に及ぼす影響を理解し、内容を調整できる。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.593-601を事前に読んでくる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
<p>この演習は、健康運動指導士の資格取得を目指す学生には必修科目であり、事前学習・出席・事後学習を極めて重視する。また、授業は、演習形式と実習形式を交えて行うため、教場が週毎に変更となることがあるので、教員からの指示に留意すること。教育実習などで演習への参加学生が少なくなる場合は、別途前期集中講義期間中に授業を行う場合もある。 大学において対面で授業を行う。</p>						
【教科書・参考書など】						
<p>健康運動指導士養成会テキストは事前に最新版を受講者全員が購入すること。図書館などで「測定評価」「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考すること。 「健康運動指導士試験 要点整理と実践問題」監修：稲次潤子、編集：上岡尚代、野田哲由、田辺達磨、文光堂</p>						
【成績評価方法】						
<p>毎回の課題（50%）、実習レポート（50%）により評価する。</p>						

科目名	運動負荷試験演習			担当者			
英 文 名	Seminar in Exercise Testing						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4					専門・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	HME404		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
<p>[講義前半] 運動負荷試験に関わる基本的知識およびその実際について、負荷試験実習を通して学ぶ。 [講義後半] 運動負荷試験時や体力測定時に多用される計測方法について、実習やデモンストレーションを通して理解を深める。</p>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
運動負荷試験の理論		運動負荷試験の理論を説明できる		運動負荷試験の理論が理解できている		運動負荷試験の理論が理解できていない	
運動負荷試験の実際		運動負荷試験の実際を説明できる		運動負荷試験の実際が理解できている		運動負荷試験の実際が理解できていない	
運動負荷試験の実践		運動負荷試験の検者になれる		運動負荷試験の被検者になれる		運動負荷試験を見学する	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進め方・運動負荷試験の概要を理解する。 健康運動指導士の役割について理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストを購入し、内容を把握しておく。(4.0hr)				第9回 運動負荷試験実習(2) 自転車エルゴメータ編 【 到達目標 】 自転車エルゴメータによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.639-644を事前に読んでくる。(4.0hr)			
第2回 運動負荷試験の実際 【 到達目標 】 運動負荷試験の目的を理解し、その実際を習得する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.629-634を事前に読んでくる。(4.0hr)				第10回 運動負荷試験実習(2) 自転車エルゴメータ編 【 到達目標 】 自転車エルゴメータによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.639-644を事前に読んでくる。(4.0hr)			
第3回 運動負荷試験の実際 【 到達目標 】 運動負荷試験に用いられる測定方法・測定用プロトコルを理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.629-634を事前に読んでくる。(4.0hr)				第11回 運動負荷試験実習(2) 自転車エルゴメータ編 【 到達目標 】 自転車エルゴメータによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.639-644を事前に読んでくる。(4.0hr)			
第4回 運動負荷試験実習(1) トレッドミル編 【 到達目標 】 トレッドミルによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.635-638を事前に読んでくる。(4.0hr)				第12回 運動負荷試験実習応用編(1) 【 到達目標 】 毎分換気量、酸素摂取量、二酸化炭素排出量などの計算方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。(4.0hr)			
第5回 運動負荷試験実習(1) トレッドミル編 【 到達目標 】 トレッドミルによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.635-638を事前に読んでくる。(4.0hr)				第13回 運動負荷試験実習応用編(2) 【 到達目標 】 呼吸交換比とMETsの理解、ATの算出を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。(4.0hr)			
第6回 運動負荷試験実習(1) トレッドミル編 【 到達目標 】 トレッドミルによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.635-638を事前に読んでくる。(4.0hr)				第14回 運動負荷試験実習応用編(3) 【 到達目標 】 負荷試験より得られたデータを患者にフィードバックする方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。(4.0hr)			
第7回 運動負荷試験実習(1) トレッドミル編 【 到達目標 】 トレッドミルによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.635-638を事前に読んでくる。(4.0hr)				第15回 運動負荷試験実習応用編(4) 【 到達目標 】 実習時のデータを用いたディスカッションを行い理解を深める。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読んでくる。(4.0hr)			
第8回 運動負荷試験実習(2) 自転車エルゴメータ編 【 到達目標 】 自転車エルゴメータによる運動負荷試験の実際を理解する。 【授業時間外学習】 健康運動指導士養成講習会テキストP.639-644を事前に読んでくる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
<p>この演習は、健康運動指導士の資格取得を目指す学生には必須科目であり、事前学習・出席・事後学習を極めて重視する。また、授業は、演習形式と実習形式を交えて行うため、教員からの指示に留意すること。実習データをまとめる際にはPCを使用する。尚、教育実習などで演習への参加学生が少なくなる場合は、別途前期集中講義期間中に授業を行う場合もある。 大学において対面で授業を行う。運動負荷試験実習は夏休みの補講期間中に実施する。</p>							
【教科書・参考書など】							
<p>健康運動指導士養成会テキストは最新版を事前に受講者全員が購入すること。図書館などで「測定評価」「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にする。 「健康運動指導士試験 要点整理と実践問題」監修：稲次潤子、編集：上岡尚代、野田哲由、田辺達磨、文光堂</p>							
【成績評価方法】							
<p>毎回の課題(50%)、実習レポート(50%)により評価する。</p>							

科目名	スポーツ健康科学演習			担当者		
英文名	Seminar in Sports Wellness Sciences					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2				専門・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	HMR301		卒業認定方針との関連	⑦
【到達目標】						
スポーツ医学の研究手法、研究のまとめ方、研究発表の方法などを実践を通じて体得する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
研究スキル		研究スキルを説明できる	研究スキルが理解できている	研究スキルが理解できていない		
研究実践		研究を主体的に実践できる	研究内容が理解できている	研究内容が理解できていない		
研究発表		研究発表を実践できる	研究発表内容を説明できる	研究発表内容が理解できていない		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。研究の班分けを行う。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを準備し、Excel、PowerPointをインストールしておく。ノートパソコンがインターネットに接続できるように、情報処理センターで手続きを済ませておく。(4.0hr)				第9回 研究の実施① 【到達目標】 研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。(4.0hr)		
第2回 スポーツ医学と研究方法 【到達目標】 医学の不確実性、医学専門領域の細分化、医学とスポーツの接点、健康スポーツ関連資格について理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 2 - 86 を読む。(4.0hr)				第10回 研究の実施② 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。(4.0hr)		
第3回 研究データの処理法とグラフ作成法 【到達目標】 ノートパソコンを用いて、Excelを使った研究データの処理法とグラフ作成法を理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 88 - 104 を読む。(4.0hr)				第11回 研究の実施③ 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究計画に沿って研究を実行する。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。(4.0hr)		
第4回 統計学的検討法 【到達目標】 ノートパソコンを用いて、Excelを使った統計学的検討法を理解する。 【授業時間外学習】 健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法 p 105 - 183 を読む。(4.0hr)				第12回 研究の実施④ 【到達目標】 研究の進捗状況を報告し、さらに研究結果をまとめる。 【授業時間外学習】 学内施設を利用して、研究を実行する。(4.0hr)		
第5回 研究論文の構成と参考文献の探し方 【到達目標】 研究論文の構成を理解し、インターネットを使った参考文献の探し方を理解する。 【授業時間外学習】 インターネット接続環境を整備しておく。(4.0hr)				第13回 研究結果のまとめ① 【到達目標】 研究結果をまとめて、グラフを作成する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、グラフを作成する。(4.0hr)		
第6回 研究発表の方法 【到達目標】 PowerPointを使った研究発表の方法について理解する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンにPowerPointを導入しておく。(4.0hr)				第14回 研究結果のまとめ② 【到達目標】 研究結果をまとめて、統計学的検討を行う。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、統計学的検討を行う。(4.0hr)		
第7回 研究計画の立案① 【到達目標】 与えられた研究テーマに沿って研究計画を立案する。 【授業時間外学習】 研究テーマに関する教科書を探して、理解しておく。(4.0hr)				第15回 研究発表会 【到達目標】 研究結果を発表する。 【授業時間外学習】 ノートパソコンを用いて、発表資料を作成する。(4.0hr)		
第8回 研究計画の立案② 【到達目標】 立案した研究計画を発表し、修正を加える。 【授業時間外学習】 研究テーマに関する文献を探して、理解しておく。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
講義は教員からの一方通行ではなく、ディスカッション形式で行うので、積極的な研究への取り組みが望まれる。授業進行にあたっては、ノートパソコンを使用する。ノートパソコンは、学内でインターネットに接続可能となるように設定しておく。ノートパソコンにはExcel、PowerPointがインストールされていること。 トレーニングセンターの利用手続きを済ませておくこと。 大学において対面で授業を行う。第1回～第8回、第13回～第15回はハイブリッドで行う場合がある。						
【教科書・参考書など】						
参考書：「健康・スポーツ科学のための研究方法 研究計画の立て方とデータ処理方法」、出村慎一著、杏林書院						
【成績評価方法】						
研究発表会の内容（100%）で成績を評価する。						

科目名	スポーツ医学特講		担当者		
英文名	Sport Medicine				
標準履修年次	1年	単位	2単位	区分	特講・選択
【授業概要・方法】					
スポーツ医学研究に必要な医学生理学の知識を深める。					
【授業計画】					
1. オリエンテーション			9. 酸素運搬の生理学：酸素の取り込みと二酸化炭素の排出について		
2. 女性とは何か：5段階の性別について			10. 酸塩基平衡：pHの調節機構について		
3. 性ホルモン：性ホルモンの類似性について			11. 体液：体液区分と水バランスについて		
4. 循環生理学Ⅰ：心臓と血管の生理学について			12. 血液学：血液学の基礎と血液検査値の読み方		
5. 循環生理学Ⅱ：循環力学について			13. 血液型：遺伝学と免疫学の考え方		
6. 心電図の基礎：心電図の原理と臨床的意義について			14. 骨・軟骨の生理学：骨及び軟骨の構造と代謝について		
7. 微小循環とバイオレオロジー：微小循環とバイオレオロジーの基礎			15. 総合討論		
8. 呼吸生理学：呼吸運動と換気力学について					
【到達目標】					
スポーツ医学研究（特に内科系）に必要な医学・生理学的基礎知識を習得し、研究遂行能力を身につける。					
【受講上の留意点】					
学生の積極的な取り組みを期待する。					
※ハイフレックス型対応院生については、ハイフレックス型で対応する。					
【授業時間外学修】					
内科系スポーツ医学の論文を読み、疑問点を洗い出し、授業時間中に解決する。					
【教科書・参考書など】					
教科書：特になし					
参考書：標準生理学（医学書院）					
【成績評価方法】					
授業内で行われる小テスト及び全講義を通したレポート内容で成績を評価する。					
【関連科目】					
スポーツ生理学特講、体力とスキルのトレーニング科学特講、ライフステージと健康科学論特講、スポーツ栄養学特講					